

マムシグサ

[草本] 《忌避》



新芽が立ち上がる様子。



開花時。



赤い果実が多数付く。

区別のポイント

山中の日陰に生える。対になっている葉の間から花茎が伸びる。花の上部はマムシが鎌首を持ち上げた形を想像させる。

形態 多年草。地上部は冬に枯れる。高さ 10 ～ 70 cm。

分布 関東地方以西の本州・四国・九州

名前の由来 茎のまだら模様からマムシを連想したことから。

葉 **〈全体〉**鳥足状の複葉で小葉は7～15枚の長楕円形。表面は暗緑色で脈が少し凹む。

〈付き方〉2枚の葉が左右に開出している。

〈葉柄〉長さは花茎と同じか短い。**〈基部〉**筒状の葉鞘が花茎を抱く。

〈葉先〉小葉の先は尖る。 **〈縁〉**波打つ。鋸歯があることもある。

備考 有毒：シュウ酸カルシウム針状結晶。サポニン。白谷雲水峡などでは食痕なし。九州では好きだが、屋久島では不嗜好性（忌避）と思われる。

出典 1